

### 老中の城

阿部家は寛永16年（1639）から文政6年（1823）まで9代184年にわたり忍城の城主を務めました。この間、阿部忠秋・正能・正武・正喬・正允と5代続けて老中就任者を出しました。忠秋の前の城主だった松平信綱も老中ですから、忍城主となった大名が6代続けて老中を務めたこととなります。

武蔵国の忍城や川越城・岩槻城、下総国の佐倉城・古河城、相模国の小田原城などは、老中に就任する譜代大名が城主となったことから「老中の城」といわれます。なかでも武蔵国の3つの城は幕府を守護する重要な城として、幕政運営の中枢を担う大



文久年間忍城之地図

名が城主となりました。川越城や岩槻城では、江戸時代中期までに城主を務める大名が何度か交替したのですが、忍城では阿部家はその地位と役割を長く保持し続けたのです。

江戸時代の忍城は阿部家が城主となつてから修築が進められ、元禄15年（1702）に三階櫓と二階櫓二棟、帯曲輪が建設され、城郭としての威容を整えました。城主の住居である御殿は本丸ではなく二の丸に建てられていました。本丸にはかつて徳川家康が鷹狩りに忍城を訪れた際に宿泊する御殿があったため、城主は二の丸に御殿を建設したと思われます。石垣はなく、本丸の周囲や二の丸・三の丸などの城の中心部の外側に土塁を築き、その周囲を広大な沼や堀が囲むなど、自然の地形を生かした整備が行われました。その外側に家臣たちが住む武家屋敷を配置しましたが、これらも土塁や堀で防御されるなど、二重三重の防衛線が張られていました。皿尾口や持田口、長野口などの城への入り口には門があり、藩士が交替で守衛していました。

忍城とはこれらすべてを含んだ広大な空間であり、藩主や家臣たちが日常の生活を過ごした場所であるとともに、忍藩十萬石の拠点となった政庁でもあるのです。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃん分かりやすく紹介します。

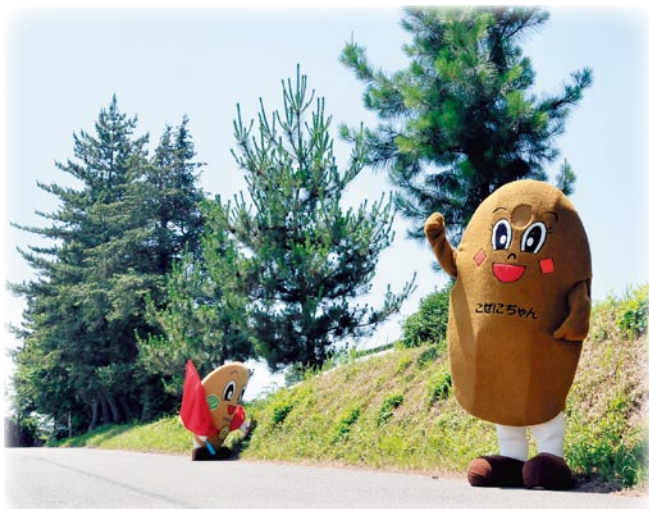
# こぜにちゃんが 行く!

with フラベネ

## いし だ つつみ 石 田 堤

石田堤は、1590年、豊臣軍の石田三成が忍城を水攻めするために築いた堤です。利根川や荒川の水を引き入れようと、丸墓山古墳を起点に築いた堤の長さはなんと28キロメートル。これをわずか1週間で完成させたというから驚きだよな。

でも、忍城周辺より下忍や堤根方面に水が集中してしまい、現在の堀切橋付近で堤が決壊。結局水攻めは失敗に終わりました。現在も堤根地区に石田堤の一部が残っているけど、丸墓山古墳から南に延びる歩道も石田堤の名残なんだって。歴史のロマンを感じますね。



### 今月の表紙

6月24日、水城公園あおいの池で南小学校3年生の児童らと長野中学校の生徒らによるホテイアオイの投げ込みが行われました。毎年8月から9月にかけて見ごろを迎えるホテイアオイ。児童らは、熊谷市在住の田中稔さんが育てた5,000株を含む10,000株のホテイアオイを元気よく池に投げ入れ、薄紫色の花が池一面に咲くのを心待ちにしている様子でした。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

